

金光教日本橋教会

御祈念詞

令和六年九月九月版

目次

信心の稽古場	1
御神伝	2
日本橋教会祈願詞	3
神前拝詞	5
天地書附	9
取次唱詞	10
ご神前ご祈念詞	11
唱名祈願	20
神徳賛詞	21

歴代教主奥城拝詞	41
難波親教会 近藤藤守先生霊前拝詞	43
首都圏布教祈願詞	45
東京親教会 畑(徳三郎)先生霊前拝詞	47
神人の栄光	48
おやがみさま	49
親神のよぎしのままに	50
新しいいのち	51
平和の祈り	52

金光大神賛仰詞（九日、十日）

天地賛仰詞（廿一日、廿二日）

世界安寧への祈り

ご霊神総拝詞

霊前拝詞

ご霊前ご祈念詞

朝暮略詞（祖先朝暮拝詞略詞）

祖先賛詞

御神訓

新霊神拝詞

日本橋教会墓前ご祈念詞

39 38 37 34 33 31 29 28 27 25 22

世界を笑顔に

朝の勢祈念

平日 神徳賛詞から

朔日、土日祝

神前拝詞から

9日、10日 +金光大神賛仰詞

21日、22日 +天地賛仰詞

信心のけいこ場

日参 にっさん

日々朝晩の拝礼

月の三日参り さんじつまい

朔日、ついたち金光大神祭日、まつりび天地金乃神祭日、まつりび

本社への参拝 もとやしろ

折々に おおもとやしろ 大本社 御本部、御霊地のこと、て 手続の本 もと 親教会、恩師の教会 へも

御神伝ごしんでん

(明治六年(一八七三)十月十日・金光大神御覚書)

天地てんち金かね乃の神のかみと申すことは、天地の間に氏子おっておかげを知らず、
神かみ仙せんの宮みや寺てら社しろ、氏子かたくの家宅かたく、みな金神こんじんの地所ちどころ、そのわけ知らず、
方角日柄かたがひばかり見て無礼むれいいたし、前々ぜんぜんの巡めぐり合あわせで難がたを受け。

氏子うぢこ、信心しんじんいたしておかげ受け。

今般いま、天地てんち乃の神のかみより生神いきがみ金光こんこう大神だいじん差し向むかひ、願ねがう氏子うぢこにおかげを授たまけ、理解りかい申まして聞きかせ、末々すえすえまで繁盛はんじょういたすこと、氏子うぢこありての神かみ、神かみありての氏子うぢこ、上下かみしも立たつようにいたし候せうこう。

日本橋教会祈願詞

*一八九一年春（明治二十四年）布教開始より起算

生いき神がみ金こん光こう大だい神じん様

天てん地ち金かね乃の神かみ様

生いき神がみ金こん光こう大だい神じん様

天てん地ち金かね乃の神かみ様

われら限りなき親おや神がみのみめぐみに生かされつつ、

ここに日本橋教会布教 * 年を迎え、

先覚先人の偉徳いとくを仰あおぎ奉まつり畏かしこみ奉まつり、

その伝道もんごうの基もとに思おもいを馳はせ、

その求道もとみちの真まことを受け継つぎて、

けわしき今の世にゆるぎなき信心あゆの歩あゆみを踏ふみ広ひろげ、

いよよ御取次おんとりつぎを頂いて、

神と人とあいよかけよで立ち行く世界を顕現けんげんせんものと、

心結び力合わせて雄々おおおしくも世の難儀に立ち向かい、

生き生きと道の展開を貫ついでかしめ給えと、

慎つしみてご祈願申し上げます。

生神金光大神様

天地金乃神様

生神金光大神様

天地金乃神様

神前拝詞

畏しやかしこ（先唱者）

天つ日の輝きあまひ 大地の育みおおつち はぐく、

時移るとも絶ゆることなく年巡るとも尽くることなし。

天地に生命ありて万の物生かされ 天地に真理ありて万の事整う。

かくも奇しき姿大いなるみ働きを、

天地金乃神と仰ぎまつりて称えまつらん。

わきても神は 天地の間に住む人皆を 神の氏子と慈しみたもう。

人とある身は 神をわが親神と慕いまつりて、

限りなき恵みのなかに生かされて生くることこそ道理なれ。

かかる道を知らずして我情我欲に惑まどいつつ、

前ぜん々の巡めぐり合あわせで難がたを受けおる人の多おほきぞ神かみの嘆なげきなる。

わが教祖金光大神いくそたび人の世の苦難に出いで会あいつつも、

実意じつい丁寧ていねい神信心かみしんじんを貫つらぬきたまい、

例たとなき神かみみかげ生まれ 神かみと人とのあいよかけよの生活はじまりゆきぬ。

尊とうとしや（先唱者）

親神かみの久ひさしき願ねがいここに現あれ、

神かみも助たすかり氏子うぢこも立ち行く 取次とりつぎの神依かんによさしを金光大神畏かしこみて受けたまい、

昼ひるは参ま来くる人に天地の恵あまみを説とき 信心の道を教おしえて暮くるるを知らず、

夜は苦しみ悩める人の立ち行きを願ひ 助かりを祈りて明くるを覚えぬ。
年経り世は変われども揺るぐことなく

身を尽くして取次のみ業務めたまいしほどに、

畏き天地書附定まり 神みかげ新たに神ひれい遍く、
永久に榮行く生神金光大神取次の道厳しくも開かれゆきぬ。



神縁まことに不思議にして 今この道に出で会うを得たり。

身の痛み心憂きこといかなる世の難あらんとも、

わが心神に向けよと取次の道立ちてあり。

昼夜を分かつた遠き近きを問わず、

隔てなき祈り持てよと取次の道立ちてあり。

あわれ神愛かんいつくしみ知らで過こせし無礼むれいを詫わび改かまりを祈いのりつつ、
生活せいふのなべてを信心しんと勤いそしみ、
深く厚あつき神かんみかかげ悟さとりては喜よろこびを深ふかくし、
痛みある人ひといたわりては道みちに誘いざない、
迷まよいある人ひと導みちきては甲斐かひある生命いのちに目覚めめしめ、
氏子うぢこありての神かみ 神かみありての氏子うぢこ、
あいよかけよで立ち行く道みちを世よに現あらわさしめたまひ、
総すべ氏子うぢこ身上しんがん安全あんぜん世界せかい真まことの平和へいのご神願しんがん、
成就じゆうじゆせしめたまえと願ねがひまつる。
成就じゆうじゆせしめたまえと願ねがひまつる。

天地書附 奉体

(先唱者)

いきがみこんこうだいじん
生神金光大神

てんちかねのかみ
天地金乃神
いっしん
一心に願。

(先唱者)

おかげは和賀心わがこころにあり。

(先唱者)
こんげつこんにち
今月今日でたのめい。

(一同)

いきがみこんこうだいじん
生神金光大神

てんちかねのかみ
天地金乃神
いっしん
一心に願。

(一同)

おかげは和賀心わがこころにあり。

(一同)
こんげつこんにち
今月今日でたのめい。

とり つぎ しよう し
取次唱詞

(先唱者)

いきがみこんこうだいじんおんとりつぎ
生神金光大神御取次。

(一同)

ま(ひと)
真一心に願わしめたまえ。

日に日に新たに頂かしめたまえ。

(先唱者)

生神金光大神御取次。

(一同)

真一心に願わしめたまえ。

日に日に新たに頂かしめたまえ。

生神金光大神様 生神金光大神様。

生神金光大神様 生神金光大神様。

ご神前ご祈念詞

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地の大親神様。

一、教祖生神金光大神様の御取次おんとりつぎをもちまして、

世の本もとつ大親神様おとおやがみ（乃神様天地金乃神様）にご拝礼申し上げます。

一、私共は本来「何事も釘くぎづけならぬ世」にありまして、無力無一物なる身でありながら、広大なる天地の生きたる御働みきに

よりまして本日いのちも尊い生命を授かり、息が出来・血が巡り・
内臓各器官より大小便まで通じ、目が見え・耳が聞こえ・口
がきけ、頭の内より手足の先までお守りいただいております
こと、真しんにありがたしと厚く御礼申し上げます。

一、私を始め信奉者一同、さらには世界なべ総ての氏子てんおんは、天恩・地恩ちおん
の内に、あるいは目に見えるおかげ・目に見えぬおかげ・知
ったおかげ・知らぬおかげの中で、衣食住・心身一切のお授
け・お守りを頂いておりますこと厚く御礼申し上げます。



一、さりながら私どもはそのおかげを知らず、あるいは神様の
御物おんもの・御差おんし向けを受け違い、人に物に事柄に喜びを忘れ、

我情我欲のままに、御心みこころを痛めておりますこと改めておわび申し上げます。

一、この上は油断・慢心なく、さらにご無礼・不行き届きのところもお気づけ下さり、天地書附の祈念に従い、万事おかげを蒙らせて頂きますよう御願ひ申し上げます。



一、この年も地産水産大経済循環安定・社会平穏・諸国共栄を始め、失難しつなん・火難・水難・地震難・不時災難のお守りを頂き、更には各々の祈念お聞届ききとどけ下さり、我らもまた人を助けて親神様と共に喜ぶ身とならせていただけますこと御礼御願おんれいおんねがひ申し上げます。



- 一、農工商業を始め公務公益に至る^{すべ}全ての産業・家事家業に携わ^{たずさ}る氏子、職は皆、天地の恩恵に基づく「神様の御用」と戴^{いた}き、
自営・代表を勤めます氏子、金銭・商品・道具の扱^い・人との
応対・従業員一同の上^に祈りを込め、
組織の中で働く氏子、職場のおかげ・人のおかげの下^{もと}に大業成就
の祈念をもちて、いづれも心身健康・社会貢献・生活充^か実のお蔭^{かげ}を
蒙^かり、大きなお役に立たせて頂^かけますこと御礼御願^い申^し上げます。
一、乗り物運^り転の氏子・各交通機^関・各器具機^械利用の氏子、道
中・利用中のお守りに御礼御願^い申^し上げます。
一、心身不調不安の氏子、改^めて只今のいのち・衣食住に真^実御礼

- を申し、神様のお手当てをお頼み申しますので、速すみやかに全快本復
させて頂けますこと、かつ本人はもとより家内一同、難はみかげと
病恩のおかげを分からせて頂きますこと御礼御願ひ申し上げます。
- 一、健康の氏子・余暇休養中の氏子、自他共にこれを尊たび、体たいの丈
夫を願ひ、体たい作りに努められますこと御礼御願ひ申し上げます。
- 一、父母を持つ氏子、些いささかにも孝こうを尽つくし、親子兄弟姉妹が共に助
からせて頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。
- 一、家庭を営む氏子、家内円満・神縁成就を常に願ひ、一家健康・
一族共栄とならせて頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。
- 一、懐妊を願う氏子、これまでの成長・良縁を顧かえりみ喜び、時期適切
に懐妊のおかげを蒙らせて頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、懐妊中の氏子、神の氏子のお授けと時々刻々只今までの発育に厚く御礼を申し上げますと共に、肥立ち・安産の上御願い申し上げます。

一、成長期の**子供と親**、心身ともに健全丈夫にお育て頂き、親も育ち、子も成長させて頂きますこと御礼御願い申し上げます。

一、学業・稽古に励む氏子、**みかげ受けての**通学鍛錬・進級卒業の上、世のお役に立たせて頂きますこと御礼御願い申し上げます。

一、就職を願う氏子、宜しき職場をお与え下さり、いずれも尊い家業として勤務全^{まつと}う発展させて頂きますこと御礼御願い申し上げます。

一、年頃の氏子、今日^{こんにち}までの育成・お守りに御礼申し上げますと共に、ご良縁成就の上御願い申し上げます。

一、单身生活の氏子、健康・経済・家業出精^{かぎようしゆつせい}・末々安心^{すえずえ}の上御礼御願

い申し上げます。

一、高齡の氏子、それぞれ身にふさわしいお役をさせて頂き、老後安心のおかげを頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、旅行中の氏子・遠方におります氏子、道中留守中ともお守り・お導き頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、土地建物願う氏子、全て神様の御土地御建物と**尊びますので**、よろしきお繰り合わせを頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、不時災難に遭あいました氏子、この御差おんし向けに萎なえることなく、速すみやかに生活立ち直らせて頂き、出来る限りの親切を尽くし合い、復興倍旧の展開を頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、**経済困窮の氏子**、只今のお命お授けに深謝いたし、祈りと信心生

活によりて立ち行かせて頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、人を困らせる氏子、私自身が神心とならせて頂き、本人には天地

の正道へと御導きを賜りますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、縁ある靈の上、天地の懐に深くお抱き下さり、神・靈・人共に

安心のおかげを頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、神恩蒙りたる氏子、人に神に取次に心尽し、親神様の御心に

添う働きにならせていただけますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、教主金光様を始め全国の教師・輔教・信奉者御用の上、本部

広前・全国の教会・親教会・各連帯活動・当教会・各家広前

働きの上、御礼御願ひ申し上げます。

一、未信・薄信・難儀の氏子、速やかにご縁をこうむり、安心の道

お導きを頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、信心致します氏子、御教みえを行ぎじ、真まの信心お引き立ての上、真まのおかけ・真まの神徳しんとくを蒙まらせて頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、



生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地の大親神様。

(御神号御神名)

唱名祈願しやう みやう き がん

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

・ ・ ・ ・

生神金光大神

天地の大親神様。

* 時に、願う人名・事名を間に挿入して繰り返し奉唱する。

神しん 德とく 賛さん 詞じ

仰あおぎまつれば天てん高くたか（先唱者） 仰あおぎまつれば天てん高くたか 拜おろがみまつれば地ちは厚あつし。

神かみの恵めぐみに生いかさるる身みの幸さいわいぞありがたき。

わが生いき神かみの御取次おんとりつき一日ひとひも欠かくるときかのなく、

天地てんちの神かみの御守おんまもり遠とおき近ちかきの隔へだてなし。

神慈かんにいつくしみは万代よろずよに遍あまねく満みちて果はてしなく、

神量かんはからいは奇くすしくて人ひとの思おもいぞ及およばざる。

われら今月こんげつ今日こんにち礼らいびまつりてひたすらに、

神かみのみかたげを賛さんえまつらん。

神かみのひれいあおを仰あおぎまつらん。

金光大神賛仰詞

生神金光大神様(先唱者)

生神金光大神様と御神号を称えて拜みまつる、

わが教祖金光大神 実意丁寧神信心をすすめ、

奇しき神みかげ蒙りたまひ、

神と人とあいよかけよで立ち行く世界の開け行くまにまに、

尊き神依さしありて専ら御取次仕えたもうこととなりぬ。

かくて生神金光大神取次の道立ち救わるる者数えも尽きず、

「神の助かり氏子の難なし神のひれい見え忝し、

神が一礼申す」と神賛えられたまひぬ。

時代とき移り社会よは変わり難かたきこと次々に起おこりくるも、

信心辛抱の徳もて道立てぬきたまえば、

ついに天地金乃神その御み神名なを現あらわしたまい、

「生神金光大神差し向け願ねがう氏子うぢこにおかげを授け理解申して聞かせ、
末々すえずえまで繁盛はんせいいたすこと、

氏子ありての神神ありての氏子うぢこ上下立かみしもつようにいたす」と神かんの宣のらせたもう。

教祖金光大神終日取次の座にましまし祈念ひねもす仕え、

参ま来いる人に「信心まいくしておかげを受け神になれ」と説とき諭さとし、

「人一人助ければ一人の神」と教え導まき、

神願成就に身を尽くさせたまひぬ。

かくて「神からも氏子からも両方の恩人はこの方金光大神」と神かんだた賛えられ、
百日修行を果たし、

かねて仕えたまいてありし金光大神祭日まつりびのその日神上かんがりましたぬ。

畏かしこしや 教祖の神ありて取次の道は始まり、

代を重ねて道は伝わり、

直信じきしん先覚先師ありて道はいや広がらぬ。

ああわれら奇くすしき神縁しんえんを蒙こうむり限りなき神恩に浴しまつる。

尊おんひとき御一代をしの俣したび慕おみとくいまつりて御徳をたた賛え仰たぎまつる。

天^{てん}地^ち賛^{さん}仰^{ぎょう}詞^し

俯^ふ仰^{ぎょう}するに(先唱者)

蒼^{そう}天^{てん}高^{たか}く澄^すみ

壤^{じょう}地^ち厚^{あつ}く展^{ひら}けたり。

天^{てん}行^{こう}は健^{けん}にして

生^{せい}生^{せい}化^{いか}育^{いく}の恵^{けい}沢^{たく}

遍^{あまね}く万^{ばん}物^{ぶつ}を潤^{うるお}す。

地^ち文^{ぶん}は之^{これ}を享^うけて

山^{さん}紫^し水^{すい}明^{めい}の相^{そう}を呈^{てい}すと雖^{いえど}も、

落^ら花^{つか}枯^こ凋^{ちょう}の風^{ふう}氣^き

時^{とき}に万^{ばん}象^{しょう}を包^{つつ}む。

人^{じん}身^{しん}の一^{いち}代^{だい}亦^{また}天^{てん}地^ちの間^{かん}に在^あり。

天^{てん}寿^{じゆ}の長^{ちやう}幼^{よう}は不^ふ定^{じやう}にして人^{じん}智^ちの測^{はか}り及^{およ}ばざる處^{ところ}なれども、

正^{せい}大^{だい}なる天^{てん}地^ちは生^{せい}死^しを越^こえて万^{ばん}人^{じん}の住^す処^かなり。

神愛は無量にして我が生神の御取次四時常に開かれてあり。
神慮は深遠にして我が親神の神比礼四海齊しく隔てあるなし。

奇しきかな今此の神縁に浴することを得たり。

只管身命の来処を奉謝し、
一心に積徳の信行を恪勤し、
以って天地の無窮を賛仰し奉らん。
天地の無窮を賛仰し奉らん。

世界安寧への祈り

「の中は各人自由に *は一例

「紛争鎮静祈願」

生神金光大神様

天地金乃神様

天地の親神様

天地の親神様

天地の親神様

・
・
・

天地の大親神様

「」

*災害復興祈願

*地球環境保全祈願

*無病息災御礼祈願

天地の親神様

天地の親神様

天地の親神様

・
・
・

天地の大親神様

ごれいじん靈神総拝詞
(先唱のみ)

これが神かん広前に齋いつき祀まつります
われらがゆかりの靈みたまのかみ神様。

靈れい前ぜん拜はい詞し

あわれ靈神みたまのかみたち達はや(先唱者)

遠とおく久ひさしき天地あめつちにまたなき生命いのちう享うけまして、

現身うつそみの齡よわいの長ながき短みじかきほどほどに、

負おいもつ務つとめに勤いそしみたましひとよ一代ひとよのみあととわは永久とわに遺のこりて、

世よの礎いしずえい家の根ねざしいと言いいつ継かたぎ語つたりあお伝つたえて仰あおぎまつらん。

○

奇くすしき神縁かんえにしこうむ蒙みりたまいいし靈神みたまのかみたち達は、

親神おやがみの御心みこころ畏かしこみて生神いきがみの道みちたどりたまい、

さききの世までも持ちてゆかれ子孫までも遺る信徳積みたまひ、
厚き御慈しみ蒙らしめたまひてあるは忝かたじけなきことの極きわみにこそ。

汝いまし靈みたま神達の尊とうときみあとた賛たえまつりつつ、

わが家の神わが神と持ち齋いっきまつりてあるをみそなわし、

親神の神引立て蒙りたまひて各も各もの身に立ちそ添そわし、

人とある万の業過よろずつことなく務つとめしめたまひ、

信心の道迷みちまよわす失うしなわす末すえの末すえまで教おしえ伝つたえて、

家内やのうちむつび和やわららぎ立たち榮さかゆべく、

守り導みちびき幸さきわえたまえ。

守り導まもき幸みちびえたまえ。

ご霊前ご祈念詞

一、仰ぎ奉ります（先唱者）、教祖の御跡みあとをお継ぎ下さいました歴代の金光様 金光四神貫行君しじんつらゆきのきみ、三代金光撰胤君せつたねのきみ、四代金光鑑太郎君かがみ たろうのきみ、五代金光平輝君へいきのきみ、伝道功勞の先覚先師 大阪初代白神新一郎先生しらかみ、難波初代近藤藤守先生ふじもり、東京布教の祖畑徳三郎先生そ、日本橋教会初代教会长松井鶴先生長畑愷先生、外、歴代教会长・教師の靈神様みたまのかみ（副教会长中島清先生、二代教会长松井長作先生、三代教会长松井照子先生、四代教会长畑齋先生、五代教会长畑愷先生、外））

ご霊神様方のお導きによりまして、日本橋教会にご縁をこうむり、日夜に信心のおかげを頂いておりますこと厚く御礼申し上げます。何卒さらには「人を助けて神も助かる」、応恩のご用にお引立て下さいますようお願い申し上げます。

一、教徒・信徒・われらが先祖祖先の靈神様：

みたまのかみ

生き死にをこえて

みたま

みたま

天地の親神様のおかげを受けられ、尊い安らかな靈の神様として、靈の道立てのおかげをこうむられますようご祈念申し上げます。私を始め子孫縁者の各々が、親先祖のご恩を悟り、一層日にちの信心に励み、末々安心・神靈人共栄の道を歩ませて頂けますようお導きお願い申し上げます。

一、不時災難で亡くなられました方々よ：

天地の親神様のふところ

に深く抱きとられました、靈の道立てのおかげをこうむられますようご祈念申し上げます。

— 朝暮略詞 — (祖先朝暮拝詞略詞)

玉たま襷だすきかけて祈いのらな世よ々の祖おや

おやのみおやの神かみの幸ちいを

(二度詠む)

生神金光大神

生神金光大神

天地金乃神、

天地金乃神、

生神金光大神

生神金光大神

天地金乃神、

天地の大親神様。

祖そ 先せん 贊さん 詞じ

代よ々よの祖おやは、(先唱者)

わが家いえの神かみわが神かみと、

心こころ尽つくして齋いっき奉まつらな。

心こころ尽つくして齋いっき奉まつらな。

尊とうとき御祖みおやの神かみたちよ、

子孫うみのこのために家いえの柱はしらを鎮しずめ立たてたまひ、

後裔はつこのために世よの生業なりわいを守まもり助たすけたまひ、

幽世かくりよの見みえぬ界さかいにましませども、

御慈みいつくしみの御心みこころは現世うつしよにかわらせたまわず、
幸靈さきみたまのまさききく幸さきわえたまい、
奇靈くしみたまのくしびに恵めぐみたまいて、
志こころしは真木まきの柱はしらの動うごきなく、
生業なりわいは結むすぶ綱目つなめのゆるびなく、
真心まごころきよ清うらに励はげみ勤つとめしめたまい、
親族うからやからやわ家族あ和あらぎ合あいて、
日ひに異けに心安うらやすく楽たのしましめたまい、
ついに現世うつしよのことおえて、
神かみの御府みかどに参まいらん時ときには、
必かならずしも迎むかえ取とりたまひ、

御慈しみを蒙らしめ賜わんものと、
神の御法の妙なるを畏み忝み、
御祖の恵みのおぼろげならぬを、
嬉しむ喜びももうすことを、
御心も涼やかに聞こし召したまえともうす。

あな奇びの御祖の靈。
あな尊の御祖の神。
あな奇びの御祖の靈。
あな尊の御祖の神。

ご神訓奉体

生きても死にても

(先唱者)

生きても死にても

天と地とはわが住みかと思えよ(二度詠む)

新靈神拝詞

あなあわれ（先唱者）　いとおしきかもにいみたま、慕わしきかもにいみたま。惚びまつるも懐かしく、惜しみまつるも限りなし。みたまの幸を祈りまつらな。心尽くして祈りまつらな。尊き神のいと子と、天地のなかに生かされて、生命の限り身を尽くし、心いたずき今ははや、身退りましぬ今ははや。現に言問うすべもなし。あわれ世に在り経しほども退りても、天地は永久にわが住みか。み心穩いに安らいて、神慈しみ受けたまえ。み心穩いに安らいて、神慈しみ受けたまえ。

日本橋教会墓前ご祈念詞

一、これに祀まつります（先唱者） 日本橋教会の初代教会長松井鶴先生、二代教会長松井長作先生、三代教会長松井照子先生、五代教会長畑やすし先生、元の副教会長中島清先生・畑和子先生みたまの御霊の神様。本日この奥城おくつきにお引き寄せを蒙り心新たにご拝礼申し上げます。ご霊神様方のお導きによりまして日本橋教会にご縁をこうむり、日夜に信心のおかげを頂いておりますこと厚く御礼申し上げます。何卒なにとぞさらには「人を助けて神も助かる」、応恩のご用にお引立て下さいますようお願い申し上げます。



一、これに祀まつります教徒・信徒のご霊れいじん神様方にご拝礼申し上げます。

生き死にをこえて天地の親神様のおかげを受けられ、尊い安らかな
霊みたまの神様として、霊みたまの道立てのおかげをこうむられますようご祈念
申し上げます。

私を始め子孫縁者の各々が、親先祖のご恩を悟り、一層日にちの信
心に励み、末々安心・神しん・れい・じん霊人共栄の道を歩ませて頂けますようお導
きお願い申し上げます。

歴代教主奥城拝詞

あはれこれの奥城おくつきにて仰あおぎ奉まつります（先唱者）、

三代金光様 金光攝胤君、

四代金光様 金光鑑太郎君、

五代金光様 金光平輝君には、

教祖きょうそ生神金光大神様の、

尊みき御跡あとをお受うけになりました金光四神貫行君しじんつらゆきのきみに尚も続かれ、

昼ひるとなく夜よとなく只一筋ひとすぢに御取次おんとりつぎ下くださりまして、

更さらに今日こんにちの現げん教主金光様へとお繋つなぎ下くださり、

私共わがらが天地金乃神様のみかこうむげを蒙こうむらせて頂たかまきしておりますことは、

かたじけな

忝かたじけなき限りのことでござります。

今こん月げつ今こん日にち

改かめて、

今こん月こう

お

み

あ

ま

い

ま

歴れき代だい教きやう主しゆ金こん光こう様やうのの大おほき御ご徳とくをを仰あおぎ奉まつり謝いび奉まつれば、

み

御ご心こころ安やすくお受うけ下くださり、

わたくし

私わたくし共どもが信しん心しんを尚なまた確かくかにお導なき下くださり、

人ひとを助たすけて神かみも助たすかる、

神かみと人ひとああいいよよかかけけよよの世よ界かい実じつ現げんに立たち働はたらかかせせて下くださりませと、

ひひととええに御ご願ねんい申まし上あげ奉まつります。

今こん月こう

今こん月こうせせつたねのききみ

三さん代だい金こん光こう様やう金こん光こう攝せつ胤いん君きみ、

今こん月こう

今こん月こうかかががみみたたろろうのききみ

四し代だい金こん光こう様やう金こん光こう鑑かん太た郎らう君きみ、

今こん月こう

今こん月こうへへいいききののききみ

五ご代だい金こん光こう様やう金こん光こう平へい輝き君きみ。

難波親教会

近藤藤守先生靈前拝詞

言いわ巻まくも尊とうときと（先唱者）
近藤藤守大人の靈神の御前を拜おろみ白もうさく、

あわれ慕したわしき昭孝あきたかの君きみはや、
若竹わかたけの若わかき頃ころおい最いと夙はやく、

初代しよだい白神しろかみ大人の導みちびきに救すくわれ、
教祖おしえみおやの神かみに親したしく神徳しんとくを受け奉まつ

り、道みちの奥義おくがふか深く分わけ進すすまい、
不事ふじを守まもりの御名みな負おい持もちて、

取次とりつぎ助たすけの神業かみわざに、
難波江なにわえの身みを尽つくくし仕つかえ奉まつらせ、
師しの

君きみの御志みこころざしを享うけ坐ましては、
教子おしえごら数多あまたはぐく育まみ、
美うまし大道おおみち弥廣いやひろ

に弥遠いやとおに弘ひろめ奉まつり、
道みちの上えに大おおき御功績みいさおた樹たて遺のこして、
神かみの

巖垣いづがき高たかく入いり立たち給たまえるあな尊とうとと。

故かれ藤浪ふじなみの陰慕かげしたい寄より、
 教おしえの流掬ながれくむものら、
 大おおき恩頼みたまのふゆを仰あお
 ぎた称たえつつ、手て篤あつき信しん心じんの御手振みをよくこそ習ならい修おさめ、
 真まことの
 道みちを踐ふみ過あやまつ事ことなく、
 撓たゆみ怠おこたる事ことなく守まもり進すすみて、
 心こころにも身み
 にも家いえにも大御陰蒙おおみかげこうむり、
 世よの為功ためいきおしく務つとめ恪いそしみ、
 神御かみみめぐみ恵めぐみ
 に応こたえ奉まつるべく、
 扶あなない導みちびき給たまえと
 敬いやまい畏かしこみも白もうす。

首都圏布教祈願詞

生神金光大神様の、

世界を包みまわさんとの、広きみ心仰ぎつつ、

われらが先覚先人の、

東に道を伝えんと、尊きみ跡偲びつつ、

きびしさつのる今の世に、

人を助けてわが身助かる信心を、心新たに求めゆき、

けわしさ加わる生活に、

神を生み出す信心を、心一つに磨きあい、

天地金乃神様の、

ごひれい輝かさんとの大願たいがんを、

おのが使命かしくと畏みて、

今こそ和賀心わがこころのときなりと、

奮ふるい立たしめたまひませ。

首都圏布教祈願 首都圏布教祈願。

首都圏布教祈願 首都圏布教祈願。

東京親教会 畑 (徳三郎) 先生靈前拝詞

あわれ尊とうときかも畑とうとの大人うしはや (先唱者)

あわれ尊とうときかも畑とうとの大人うしはや、あわれ懐なつかしきかも我が教みことえの
父尊ちちみことはや、大人うしが御功績みいさおを箱根ふたにの山やまの清しみずく高く仰まっぎ奉まっり、尊みことが

御み恵めぐみを武蔵野むさしのの小野おのの広ひろく遠とほく慕したい奉まっりて、宇豆うづの御前みまえに伊い這はい

回もとおり拜おろがみ称ただえ奉まっらくを、御心みこころも穩おだいに受たまけ給たまい、御思みいも安やすらに

見み覧そなわして、我等われら諸々もろもろが行末ゆくすえを長ながく導さきき広ひろく幸さいえませと、謹つつしみ畏かしこ

みも白もうす。

御心みこころは永遠とわに通とほいて 玉鉾たまぼこの道ちみちの行手ゆくてを弥守いやりませ。

御心みこころは永遠とわに通とほいて 玉鉾たまぼこの道ちみちの行手ゆくてを弥守いやりませ。

御心みこころは永遠とわに通とほいて 玉鉾たまぼこの道ちみちの行手ゆくてを弥守いやりませ。

神人の栄光

佐藤金造作詞 尾原道春作曲 金光威和雄編曲

一、 天地あめつちは神のふところ 人はみな神のいとし子

かぎりなき神徳めぐみのなかに 生かさるるわれ等らうれしき

二、 人の世にとわの光を いとし子につきぬみかげを

誓ちかわしし教祖みおやの神に 救ちかわるるわれ等らうれしき

おやがみさま

畑愷作詞
西村京子作曲

一、うららなる朝の清き祈りに

おやがみさまは御手^{みて}を差し伸べ^の

我らを今日^{きょう}も御恵^{みめぐ}みたもう

四、はげみの昼も眠^よりの夜わも

おやがみさまはまなざし深く

我らを常に御守^{みまも}りたもう

親神のよぎしのままに

窪田空穂先生校閲

金光碧水・佐藤薇洞合作
清水脩作曲

一、親がみの よぎしのままに わが生神 金光大神

取次の 道立ちしより 代々よよを経て 今につづけり

二、神からも 氏子たまらからも 両方の 恩人たなりと

親神の のらし給たまえる 生神たを 賛たえまつらん

三、神のひれ 木綿崎山ゆうぎきやまに 照てり映はえて 日の光なす

取次の 道の靈光みかげを とこしえに 仰あおぎまつらん

新しいいのち

山縣二雄作詞 金光威和雄作曲

一、新しい時間が始まり 新しいいのちが生まれる

親神の恵みをうけて 生かされて生きてくるもの

はかり知れぬ深い過去から 終わりのない未来へ伝わるいのち

生神金光大神 生神金光大神 仰がせてください このいのちにみ光をみ光を

一、あけぼののきざしほのかに 目をさますいのちのはたらき

花ひらき鳥はさえずり あめつちに満ちてくる音

はかり知れぬ深い過去から 終わりのない未来へ伝わるいのち

生神金光大神 生神金光大神 聞かせてください いま天地てんちの開ける音おとその音を

平和の祈り

生神金光大神様

天地金乃神様。

生神金光大神様

天地金乃神様。

天地のいのちに生きる人間は、みな神のいとし子。

天地のいのちに生きる人間は、みな神のいとし子。

戦争と、環境破壊と差別によって、あえぎ苦しむ人々と、共に助かる

道を開き、真しんの平和を築くため、勇氣と英知にみつる実践ができます

よう、お導きくださいませ。すべてのいのちが尊ばれ、すべてのいの

ちが立ち行きますように。

生神金光大神様

天地金乃神様。

生神金光大神様

天地金乃神様。

世界を笑顔に（二度詠む）

疑いを放れて広き真まことの大道おおみちを開き見よ。
わが身は神徳しんとくの中に生かされてあり。

御礼おんれい、信・頼、お手伝い、

人を助けて 神も助かる、
あいよかけよで世界を笑顔に。